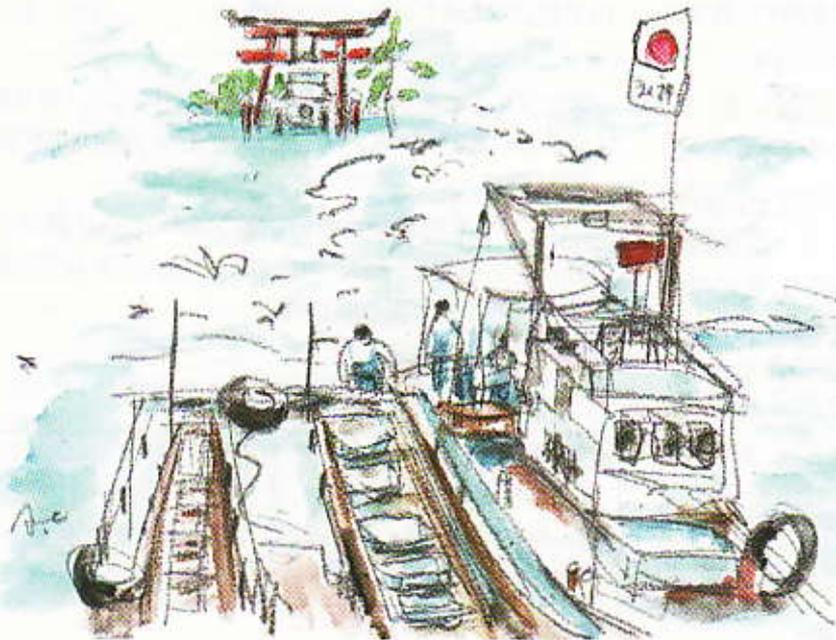


## 瀬戸内のイカナゴ漁

神戸・垂水漁港の岸壁に立ち、右頬に雪風を受けて、前方に広がる瀬戸内に浮かぶイカナゴ漁船の船団旗を眺めている。陽光を浴びて網を引く漁船たちは一足先に春の恵みをうけていた。間もなくイカナゴを積んだ運搬船がカモメを連れて入港。トロ箱サイズの籠に詰められたイカナゴは、コンベアで陸揚げされて作業員の手に。空になった運搬船は沖で待つ網船へ急ぐ。この漁の船団は運搬船1隻と網船2隻から成るという。海神社をくぐって、駅近くの市場で買ったイカナゴはくぎ煮にふさわしい大きさに育てており、帰路を急ぐことにした。昔、塩屋界隈に住んでいた頃、どこの家からともなくイカナゴを炊くにおいがしてきたことが懐かしく思い出された。



神戸市垂水区平磯3丁目

あつた ちかよし  
熱田 親喜